

平成 25 年 3 月 1 日

21 世紀文明研究セミナー2012 E 芸術 美術館は試みる

大河原邦男のメカデザイン—美術館はアニメをどう見せるか—

兵庫県立美術館 小林公

■美術館と漫画、アニメ これまでの取り組み

・当館での事例

「ジブリの絵職人 男鹿和雄展」(2009 年)、「水木しげる・妖怪図鑑」(2010 年)、
「借りぐらしのアリエッティ×種田陽平展」(2011 年)

・他館での事例

「手塚治虫展」(東京国立近代美術館ほか 1990 年)、
「リトルボーイ」展(ジャパン・ソサエティー、ニューヨーク 2005 年)、
「ロボットと美術」展(青森県立美術館ほか 2010 年)、
「館長庵野秀明 特撮博物館」(東京都現代美術館ほか 2012 年)

■ロボットアニメについてのこれまでの研究

- ・愛好者による知識の蓄積(作品世界内での解釈、制作秘話、データ集積)
- ・戦後日本文化として(大塚英志、ササキバラ・ゴウ、榎木野衣、村上隆)
- ・アニメ評論の立場から(氷川竜介、原口正宏(リスト制作委員会))

■大河原邦男の仕事(メカニカルデザインとは?)

- ・産業の一部であること(アニメーション、玩具)
- ・共同作業であること(多数の関係者へのインタビューを図録に収録)

■「超・大河原邦男展—レジェンド・オブ・メカデザイン—」展覧会構成

1 章 1972-1973 年まで

2 章 1974 年から 1981 年まで

3 章 1979 年から 1983 年まで

⇔

4 章 1977 年から 1994 年まで

5 章 1983 年から 1987 年まで

6 章 1990 年から 1997 年まで

7 章 1999 年以降

※何を、どう、展示するか。

設定資料、映像、玩具

超・大河原邦男展 レジェンド・オブ・メカデザイン 2013.3.23(土) - 5.19(日)

開館時間 午前10時-午後6時(金・土曜日は午後8時まで)
入場は閉館の30分前まで

休館日 月曜日
ただし4月29日(月・祝)および5月6日(月・振休)は開館
4月30日(火)および5月7日(火)は休館

主催 兵庫県立美術館、産経新聞社、神戸新聞社
後援 兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会
サンケイスポーツ、タ刊フジ、サンケイリビング新聞社
関西テレビ放送、サンテレビジョン、ラジオ大阪
ラジオ関西、Kiss FM KOBE

協賛 株式会社大伸社
特別協力 公益財団法人日本教育公務員弘済会兵庫支部
企画協力 株式会社サンライズ、株式会社電の子プロダクション
制作協力 株式会社アドシステム
協力 パナソニック株式会社、ホテルオークラ神戸

観覧料	一般	大学生	高校生・65歳以上	中学生以下
	1,300(1,100)円	900(700)円	650(550)円	無料

- ()内は前売および20名以上の団体割引料金(高校生・65歳以上は前売なし)。
- 障害のある方とその介護の方1名は各当日料金の半額(65歳以上を除く)。
- 割引を受けられる方は、証明できるものを持参のうえ、会期中美術館窓口で入場券をお買い求めください。
- コレクション展の観覧には別途観覧料金が必要です(本展とあわせて観覧される場合は割引あり)
- 前売券は3月22日まで販売します。会期中は販売しません。
- 前売券販売場所: チケットぴあ(Pコード:765-517)、ローンチケット(Lコード:57586) ほか京阪神の主要プレイガイド
- 「フィンランドのくらしとデザイン」展とのセット券をチケットぴあ(Pコード:765-482)、ローンチケット(Lコード:55799)等で3月10日正午まで販売します。



関連イベント ※イベントの詳細情報は当館ホームページをご覧ください

大河原邦男サイン会
5月5日(日) 午前11時より 約2時間(午前10時より整理券配布) ホワイエにて
・要整理券、要展覧会チケット [半券可]
・整理券の配布は本展覧会図録を持参された方、先着100名様に限ります。
・図録は整理券の受取時にもご購入いただけます。

記念対談 1 「あこがれの巨大ロボット」
出演:大河原邦男氏+倉田光吾郎氏(鉄鋼アーティスト)
3月23日(土) 午後2時より 約90分(開場は午後1時30分) ミュージアムホールにて
聴講無料(要整理券、要展覧会チケット [半券可])
定員250名(午前10時よりホワイエにて整理券配布)

記念対談 2 「ドラマの中の大河原メカ」
出演:大河原邦男氏+高橋良輔氏(アニメーション監督)
5月5日(日) 午後3時より 約90分(開場は午後2時) ミュージアムホールにて
聴講無料(要整理券、要展覧会チケット [半券可])
定員250名(午前10時よりホワイエにて整理券配布)

大人女子のための展覧会講座「メカにハマる男子の気持ち」
講師:岡山拓氏(アトライター)

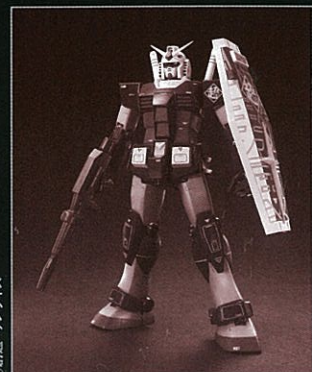
4月27日(土) 午後5時より 約90分(開場は午後4時30分) レクチャールームにて
聴講無料(要展覧会チケット [半券可])
定員100名(女子以外も参加可能)

学芸員による解説会
4月6日(土)、5月11日(土) 午後4時より 約45分
レクチャールームにて
聴講無料
定員100名

ボランティアによる解説会
毎週日曜日 午前11時より 約15分 レクチャールームにて
聴講無料

こどものイベント 1 「達人に学ぶ!! プラモデル教室」
5月6日(月・振休) 午前10時30分より午後0時30分まで アトリエ2にて
プラモデルを作ったことのないあなたや、作っただけどいまいち?だった君にびったりなイベントです!(参加には申し込みが必要です)
対象 小・中学生とその保護者
参加費 1,050円
定員 30名
|申し込み方法| 往復はがきに ①参加希望人数 ②参加者の名前 ③こどもの学校名・学年 ④代表者の名前・住所・電話番号 をご記入の上、「兵庫県立美術館 こどものイベント係」までお送りください。締め切りは4月20日(消印有効)です。お問合せは078-262-0908(こどものイベント係)まで。 ※このイベントは株式会社ボックスの協力を得て開催します。

こどものイベント 2 「ラジコン・ロボットで遊ぼう」
5月6日(月・振休) 午前11時より午後2時まで アトリエ1にて
ラジコンで動くレトロなロボットが大集合。ラジコンロボ博士と一緒に遊んでみよう!イベント時間中はいつでも好きな時に遊びに来てね。
参加無料(要展覧会チケット [半券可])



会場の物販コーナーでは、
展覧会オリジナルグッズが多数登場!

展覧会限定のガンブラ「MG 1/100 ガンダム Ver.2.0 リアルタイプカラー 超・大河原邦男展 Ver.」(税込4,515円)が登場。ボックスアート(外箱)には大河原邦男氏の描き下ろしイラストを使用し、成型色も氏の意向を基に再設定。本Ver.オリジナルマーキングシールも追加。ここでしか手に入らない、「超」ガンブラです。(※数量限定の販売となります。売り切れの際はご了承ください)

©前澤・サンライズ



超・大河原邦男展 レジェンド・オブ・メカデザイン 2013.3.23(土) - 5.19(日)

開館時間 午前10時-午後6時(金・土曜日は午後8時まで)
入場は閉館の30分前まで

休館日 月曜日
ただし4月29日(月・祝)および5月6日(月・振休)は開館、4月30日(火)および5月7日(火)は休館

兵庫県立美術館
HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART
開館10周年 〒651-0073 神戸市中央区臨浜海岸通1-1-1 (HAT神戸内)
http://www.artm.pref.hyogo.jp | tel. 078-262-0901 (代表電話)

ガンダム、ダグラム、ボトムス…全機美術館に集結せよ。
「増島士ガンダム基本設定」ガンダム内巡回展 | 10709 | ©前澤・サンライズ

超ロボットメカデザイン 大河原邦男展

大河原邦男(おおかわら くにお 1947-)は主にアニメーション作品に登場するロボットなどをデザインするメカニカルデザインという仕事を日本において確立した、生きた伝説とも呼ぶべき存在です。「科学忍者隊ガッチャマン」(1972)、「タイムボカンシリーズ ヤッターマン」(1977)、「機動戦士ガンダム」(1979)などのアニメ作品は今もたくさんの人々に親しまれていますが、その人気を大きく支えているのが大河原氏によるメカデザインです。硬質でリアリティにあふれるものからユーモアにみちたものまで、多様な魅力をたたえる大河原デザイン。それは20世紀の視覚文化における最も重要なもののひとつであり、国境も世代も越えた影響力を保ちつづけています。この展覧会では7つの章により、大河原デザインの秘密に迫ります。出品作品の中核をなすのが大河原氏直筆の設定資料。これまで門外不出とされてきたもので、そのほとんどが本邦初公開です。総出品作品数は400点以上。かつてない規模の、まさに「超」大河原邦男展です。待望の展覧会がいよいよ神戸で始まります。ご期待ください。

1章 「メカニカルデザイナー」誕生

大河原邦男氏がアニメ史上初めて、ロボットなどのメカを専門にデザインする「メカニックデザイン(表記は当時のママ)」としてクレジットされた「科学忍者隊ガッチャマン」(1972)を中心に、それまでの日本のアニメ作品における代表的なメカデザインを紹介します。

【主な大河原邦男氏参加作品】
「科学忍者隊ガッチャマン」(1972)

2章 ロボットアニメの黄金時代 メカニカルデザイナーとしての成長と躍進

1970年代の後半はロボットアニメの黄金時代です。テレビの前の子供たちはロボットの活躍に胸をおどらせ、何とかその玩具を手に入れたいと願いました。大河原氏にとっては竜の子プロダクションからメカマンを経て独立を果たした時期です。この章では大河原氏が初めて手がけた主役ロボット「ゴードム」、そして変形・合体を特徴とする巨大ロボットのデザインを見ていきます。

【主な大河原邦男氏参加作品】
「宇宙の騎士テッカマン」(1975) / 「ゴウパー5ゴードム」(1976) / 「無敵鋼人ダイターン3」(1978) / 「無敵ロボトライダーG7」(1980) / 「最強ロボダイオージヤ」(1981)

3章 兵器としてのロボット 大河原デザインのひとつの到達点

「機動戦士ガンダム」(1979)に登場するロボットは「モビルスーツ」と呼ばれる兵器として設定されました。それまでの変形・合体をする巨大ロボットの性格を受け継ぎながらも、後に「リアルロボット」と呼ばれるようになる見る者に強いリアリティを感じさせる設定と大河原氏によるデザインは、日本のアニメに革新をもたらすものでした。敵のメカが玩具化され、主役に勝るとも劣らない人気を得るといふ、それまでには考えられなかった現象も巻き起こります。本章では大河原氏のメカデザインのひとつの頂点である「装甲騎兵ボトムズ」(1983)に至る「兵器としてのロボット」のデザインを紹介します。

【主な大河原邦男氏参加作品】
「機動戦士ガンダム」(1979) / 「太陽の牙ダグラム」(1981) / 「装甲騎兵ボトムズ」(1983)

4章 カワイイ、メカ もう一人の大河原邦男

「カッコイイ」ロボットのデザインによって一世を風靡した大河原氏ですが、ユーモラスで親しみを感じさせるメカデザインの傑作も数多く生み出しています。その代表的な例であるタイムボカンシリーズなど、「カワイイ」メカのデザインの数々を紹介します。

【主な大河原邦男氏参加作品】
タイムボカンシリーズ(「ヤッターマン」(1977)以降のもの / 「ゼンダマン」(1979) / 「ヤットデタマン」(1981)) / 「超力ロボガラルト」(1984) / 「魔動王グランゾート」(1989) / 「疾風!アイアンリーガー」(1993) / 「機動武闘伝Gガンダム」(1994)

6章 ロボット・ヒーローの復活 もういちど子供たちのために

1990年代になって、大河原氏は再び小さな子供たちのためのロボット=変形・合体を行う巨大ロボットのデザインを精力的に手がけます。本章では、こうした玩具としての魅力に溢れる1990年代の大河原氏の仕事を紹介します。

【主な大河原邦男氏参加作品】
「勇者エクスカイザー」(1990) / 「勇者特急マイトガイン」(1993) / 「勇者王ガオガイガー」(1997)

5章 リアリズムの拡張 大河原ブランドの洗練と深化

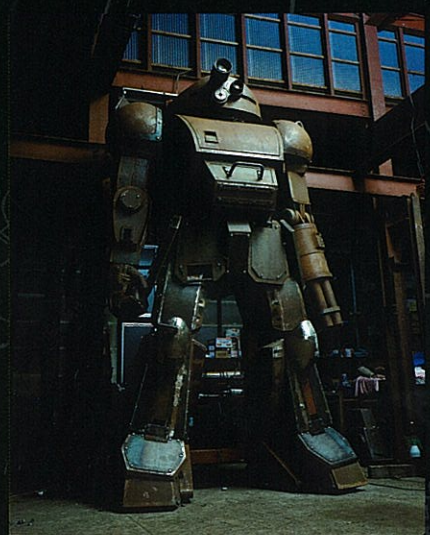
モビルスーツという設定が世に出てから、アニメのロボットにはリアリティのある役割がますます求められるようになります。ロボットやメカの設定は多様なものとなり、作品の世界観を支える重要な要素となります。本章ではこうした「モビルスーツ以後」の多彩なデザインを紹介します。

【主な大河原邦男氏参加作品】
「未来警察ウラシマン」(1983) / 「銀河漂流バイファム」(1983) / 「蒼き流星SPTレズナー」(1985) / 「機甲戦記ドラグナー」(1987) / 「機動戦士ガンダムF91」(1991)

7章 大河原邦男の今

2000年代に入っても衰えを知らない大河原氏の仕事を現在進行系で紹介いたします。

【主な大河原邦男氏参加作品】
「機甲武装Gブレイカー」(2002) / 「機動戦士ガンダムSEED」(2002) / 「MSV-スタンダード」(角川書店 2010-) / 「一発必中!!デバンダー」(2012)



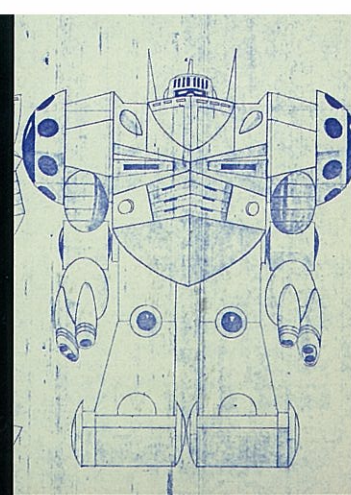
鉄鋼アーティスト・倉田光吾郎氏による
1/1スケールのスコープドッグも必見!



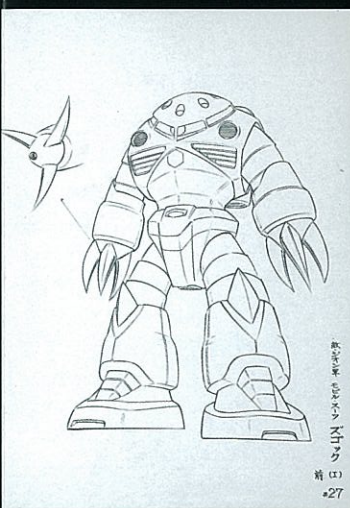
「科学忍者隊ガッチャマン」基本設定(決定稿コピー):ミクロサターン 1973頃 ©タツノコプロ



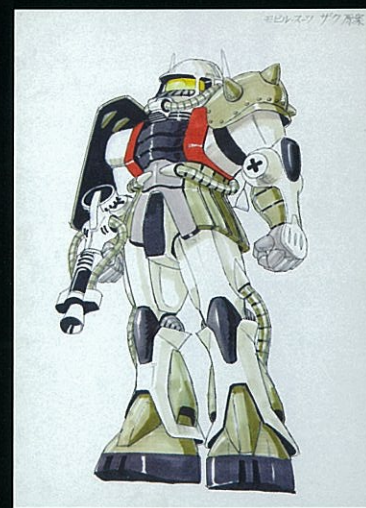
「無敵鋼人ダイターン3」基本設定(決定稿):ダイターン・ハンマー ダイターン・ファン 1977頃 ©創造・サンライズ



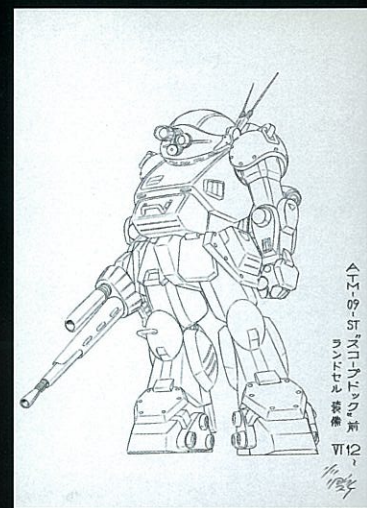
「ゴウパー5ゴードム」基本設定(決定稿コピー):ゴードム 1975頃 部分 ©タツノコプロ



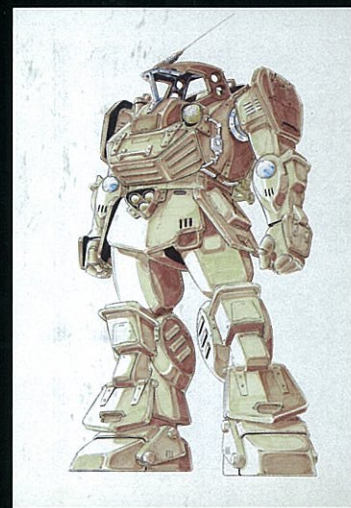
「機動戦士ガンダム」基本設定(決定稿):ズゴック 1979頃 ©創造・サンライズ



「機動戦士ガンダム」最初期設定:ザク 1978 ©創造・サンライズ



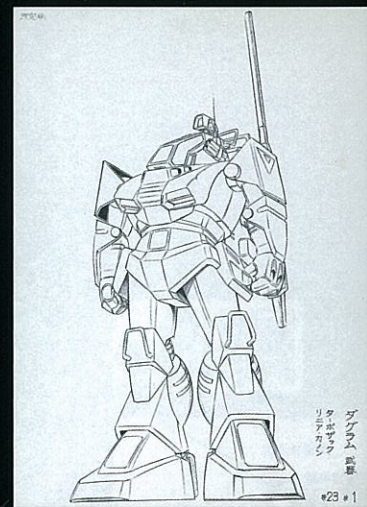
「装甲騎兵ボトムズ」基本設定(決定稿):スコープドッグランドセル装備 1983 ©サンライズ



「装甲騎兵ボトムズ」最初期設定:ボトムズ 1981頃 ©サンライズ



「機動戦士ガンダムII 哀・戦士編」全判ボスター-原画 1981 ©創造・サンライズ



「太陽の牙ダグラム」基本設定(決定稿):ダグラム 1981頃 ©サンライズ



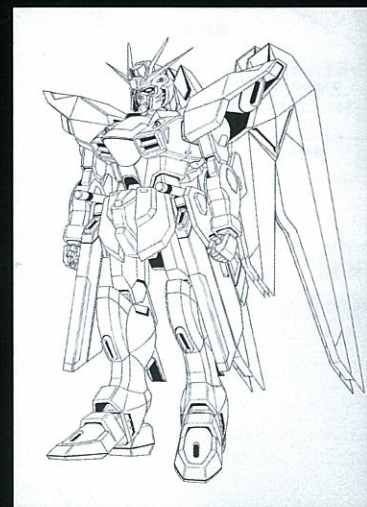
「タイムボカンシリーズ ヤットデタマン」初期設定:タイムラウラー 1980頃 部分 ©タツノコプロ



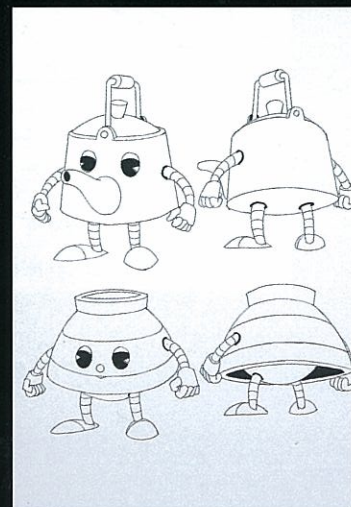
「蒼き流星SPTレズナー」初期設定:レズナー 1983頃 ©サンライズ



「勇者特急マイトガイン」初期設定:マイトガイン 1992頃 ©サンライズ



「機動戦士ガンダムSEED」基本設定(決定稿):フリーダムガンダム 2003頃 ©創造・サンライズ



「一発必中!!デバンダー」基本設定(決定稿):チビカヤカンドピン・球フ 2012 部分 ©タツノコプロ/デバンダー製作委員会 2011

「機動戦士ガンダム」基本設定(決定稿) / 「ゴウパー5ゴードム」基本設定(決定稿) / 「科学忍者隊ガッチャマン」基本設定(決定稿) / 「無敵鋼人ダイターン3」基本設定(決定稿) / 「機動戦士ガンダム」基本設定(決定稿) / 「機動戦士ガンダムII 哀・戦士編」全判ボスター-原画 / 「太陽の牙ダグラム」基本設定(決定稿) / 「装甲騎兵ボトムズ」基本設定(決定稿) / 「機動戦士ガンダムSEED」基本設定(決定稿) / 「一発必中!!デバンダー」基本設定(決定稿)